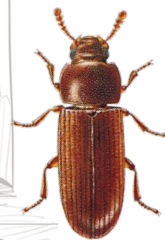
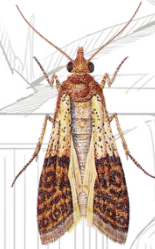
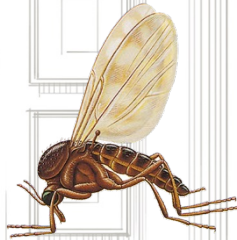


屋内で発生する 害虫TOP10 とその防除方法

TOP 10 PESTS THAT GROW INDOORS AND HOW TO CONTROL THEM



室内から発生する害虫TOP10とその防除方法

Introduction

健康的かつ快適な居住環境を邪魔する厄介者。室内で発生する虫がその一つであると思います。

この資料はEnvu社員が年間200件ほどの害虫鑑定の相談をもとに、独断と偏見でTOP10形式に再編集しました。

本編では虫のイラスト、特徴と生態、防除方法をご紹介します。

健康的かつ快適な居住環境を創造すべく日々ご尽力されている皆様にご活用いただければ幸いです。



10位 / コクゾウムシ

Sitophilus zeamais

成虫体長

2.3～3.5mm

特徴・生態

ゾウの鼻のような口吻があり、上翅にはやや不明瞭な紋が4つある。

コメ、ムギ、トウモロコシなど貯穀を食害する害虫。貯穀以外に乾麺、パスタなどの加工食品も食害する。

コクゾウムシの防除方法

発生源（コメ、ムギ、トウモロコシなどの貯蔵穀物や、乾麺など乾燥食品）を特定することが重要。

食品の場合は、薬剤処理はできないので、廃棄処分する。

部屋に散らばって潜んでいるものには、燻煙剤などを使用する。

なお、コクゾウムシが混入している食品を誤って食べても特に影響はない。



Sitophilus
zeamais

9位 / クロバネキノコバエ

Sciaridae

成虫体長

1.6～3.2mm

特徴・生態

ハエと名前が付いているが、蚊の仲間に近い。糸状の触角をもつ。

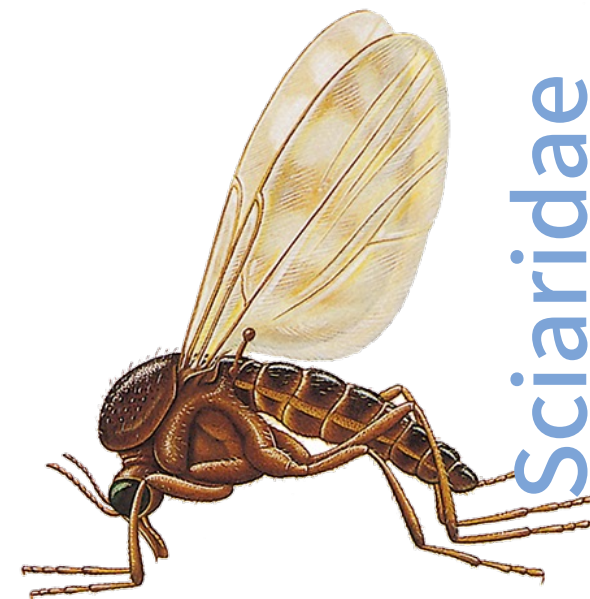
近年 日本各地で大量発生し、給食などに混入し問題となっており。腐葉土など腐植質のものから発生すると言われているが、大量発生の原因や詳しい発生源はわかっていない。

クロバネキノコバエの防除方法

発生の原因をつくらないような環境の管理が第一である。樹木などに多量の堆肥を施したり、刈り取った草などを積み上げて放置したりしないようにする。しかし、発生源は不明であったり、広範囲に及ぶことが多いため、発生源対策は容易ではない。

そのため、侵入防止対策しか行えないケースも多い。

ただ大量発生の場合は忌避剤もほとんど効果がないという報告もある。



Sciaridae

8位 / チビタケナガシクイ

Dinoderus minutus

成虫体長

2.5～4.0mm

特徴・生態

成虫の触角は先端の3節が大きい。胸部背面には、同心半円状に配置された小突起がある。

成虫、幼虫とも主に竹材・竹製品などを食害する。糖分の多い部分のみを食害し、表皮や内皮は食害しないので、外側から見ただけでは被害に気付かないことが多い。壁土の中に組まれたコマイ竹から大量発生することがある。

チビタケナガシクイの防除方法

被害部位（主に竹材）を中心に殺虫剤の散布、塗布処理を行う。

交換が可能な部位であれば、全て取り替えた方が無難。

土壁の内部のコマイ竹等に発生したものに対しては、薬剤を到達させることが困難なため、駆除は極めて難しい。

文化財等で被害部位交換も薬剤処理も困難な場合は、ガス燻蒸を行う。



Dinoderu
minutus

7位 / チョウバエ

Psychodidae

成虫体長

3.0～5.0mm

特徴・生態

翅は体のわりに大きく、ひし形で横脈がない。体、翅ともに毛に覆われている。

幼虫は汚泥の溜まった下水溝など、有機物の多い汚れた水域に発生する。成虫は一般に夜間活動性で、飛翔力は弱く、昼間は、湿気の高い厨房、風呂場、トイレなどの壁に静止していることが多い。

チョウバエの防除方法

発生源となっている排水溝、浄化槽などを特定し、清掃・薬剤処理する。幼虫に対しては投げ込み式の殺虫剤、IGR※などが有効。

発生源に対する定期的な清掃と薬剤処理が望ましい。

発生源となる排水管に網を張るなどして成虫の侵入・脱出を防止するのも有効な手段である。

※昆虫成長制御剤 Insect Growth Regulator



Psychodidae

6位 / ガイマイゴミムシダマシ

Alphitobius diaperinus

成虫体長

5.0～7.0mm

特徴・生態

体色は、黒～黒褐色で光沢がある。鞘翅にははっきりとした点刻列がある。

穀類の害虫で、完全な穀粒より、粉になったり、傷んだものを好んで食害する。穀物倉庫、精米・製粉工場、飼料工場、鶏舎などでよく大発生する。灯火によく誘引されるため、大量発生したものが家屋に飛来して問題となる。

ガイマイゴミムシダマシの防除方法

発生源（一般家庭では貯蔵穀類や粉類など）を特定することが重要。

食品の場合は、薬剤処理はできないので、廃棄処分する。

鶏舎などから大量発生したものについては、鶏舎専用の薬剤で処理する。ただ本種は、鶏舎においてはイエバエの幼虫を捕食する益虫の側面も有する。



Alphitobius
diaperinus

5 位 / ヒラタキクイムシ

Lystus brunneus

成虫体長

2.0～9.0mm ※栄養状態によって体長が大きく異なる

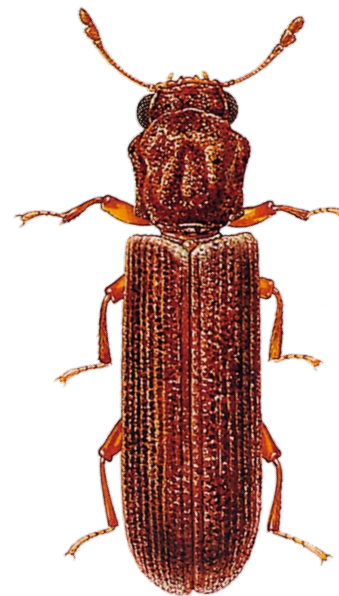
特徴・生態

触角は先端の2節が大きい。眼は半球状に飛び出ているように見える。本種は同一材に1回だけ加害するものではなく、材に栄養分が残っていれば、何回でも産卵・加害を繰り返す。被害が起こる材は、ラワン、ナラ、キリなどのデンプン質の多い広葉樹。針葉樹には産卵できないので、被害は起こらない。

ヒラタキクイムシの防除方法

被害部位を中心に薬剤の注入、塗布処理を行う。成虫の脱出孔から注入処理すると殺虫成分が材に浸透しやすいので、ノズル付きのエアゾール等で処理する。

しかし、幼虫が材の中に深く侵入している時期には薬剤が届かないので駆除は難しい場合もある。被害箇所周辺にヒラタキクイムシのエサとなるような合板等の木材がある場合は、予防の意味でその周辺にもピレスロイド系などの薬剤を塗布しておくといよい。



Lystus
brunneus

4 位 / ノシメマダラメイガ

Plodia interpunctella

成虫体長

約15mm (翅 開帳時)

特徴・生態

前翅は基部の半分は灰～黄褐色、外側は赤褐色。

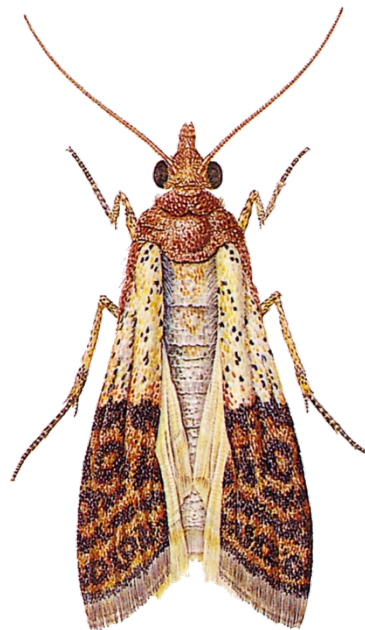
主に穀物を食害するが、その他にも、豆類、ナッツ、ココア、チョコレート、乾燥果実など、きわめて広い食性を持ち、貯蔵食品への被害が最も多い害虫として知られる。

ノシメマダラメイガの防除方法

食性が非常に広いため発生源を特定することは難しい場合もあるが、発生源を断たない限り発生は止まらない。一般家庭では、ほとんどの場合 穀類、粉類、乾燥食品から発生している。

食品の場合は、薬剤処理はできないので、廃棄処分する。

フェロモンを利用したトラップ等もあるが、駆除用ではなく調査用として用いられる。



Plodia
interpunctella

3位 / シバンムシ類

Lyctus brunneus

タバコシバンムシ

Lasioderma serricorne

成虫体長

約2.5mm

特徴・生態

触角はノコギリ歯状で各節の大きさはほぼ同じ。鞘翅は明瞭な点刻列がない。乾燥植物の害虫で、タバコの乾燥葉をよく食害するのでこの名がある。これ以外に穀類、粉類なども食害する。しばしば畳から大量発生し問題となる。この場合、本種に寄生するシバンムシアリガタバチが同時に発生し、人が刺される被害が発生することがある。



*Lasioderma
serricorne*

ジンサンシバンムシ

Stegobium paniceum

成虫体長

約2.5mm

特徴・生態

触角は先端の3節が大きい。鞘翅は明瞭な点刻列がある。乾燥植物の害虫で、朝鮮人参（にんじんをジンサンと読む）を食害するのでジンサンシバンムシという名前がついた。穀類、粉類、香辛料、煮干、ペットフードなどさまざまなものを食害する。非常に食性が広く、その被害物品は100種類以上に及ぶと言われている。



*Stegobium
paniceum*

タバコ・ジンサンシバンムシの防除方法

発生源（一般家庭では貯蔵穀類、粉類、乾麺などの食品か畳）を特定することが重要。食品の場合は、薬剤処理はできないので、廃棄処分する。畳から大量発生している場合は、畳を熱処理するか、裏側から薬剤で処理する。薬剤処理した場合、薬剤を完全に乾かす必要があるので、合わせて虫干し（日光に当てる）を行うとよい。

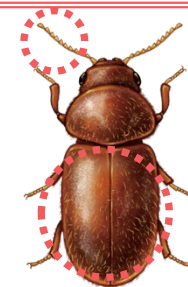
タバコシバンムシと ジンサンシバンムシの見分け方

触角

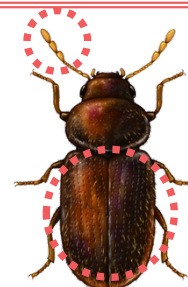
タバコは、ノコギリ状でほぼ同じ大きさ。
ジンサンは、先端の3節が大きい。

鞘翅

タバコは、明瞭な点刻列がない。
ジンサンは、明瞭な点刻列がある。



タバコシバンムシ



ジンサンシバンムシ

2位 / ホソヒラタムシ類

Silvanidae

ノコギリ
ヒラタムシ*Lasioderma serricorne*

成虫体長

2.5～3.0mm

特徴・生態

ノコギリの名前の通り、胸部側縁は、小突起が並びノコギリ状になっている。
穀類や乾燥食品から発生するが、特に他の害虫（コクゾウやメイガなど）に食害されたり、カビが生え、傷んだものから発生することが多い。

フタトゲホソ
ヒラタムシ*Alphitobius diaperinus*

成虫体長

2.5～3.5mm

特徴・生態

フタトゲの名前の通り、胸部の前部分（左右）は、鋭いトゲ状に尖っている。
穀類や乾燥食品から発生するが、特にカビが生え、傷んだものから発生することが多い。
新築の住宅においては、床下や畳などに発生したカビから大量発生することが多い。

カドコブホソ
ヒラタムシ*Ahasverus advena*

成虫体長

2.0～2.5mm

特徴・生態

カドコブの名前の通り、胸部の前部分の角（左右）は、コブ状に膨らんでいる。
穀類や乾燥食品から発生するが、特にカビが生え、傷んだものから発生することが多い。
新築の住宅においては、床下や畳などに発生したカビから大量発生することが多い。

ホソヒラタムシ類の防除方法

発生源（カビの生えた物品や食品）を特定することが重要。
食品の場合は、薬剤処理はできないので、廃棄処分する。
部屋に散らばって潜んでいるものには、燻煙剤などを使用する。

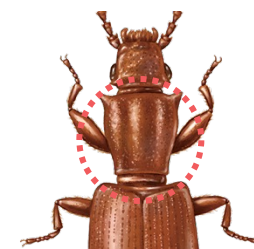
しかし、殺虫剤を処理しても、カビが生えやすい環境を変えない限り、再び発生することが多いので、防カビ剤を処理した方が効果が高い場合が多い。

ホソヒラタムシ類の見分け方

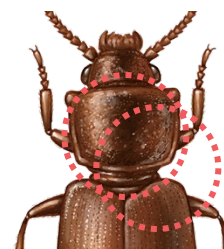
ホソヒラタムシ類を見分けるには、胸部を確認すればよい。
それぞれの名前が胸部の特徴を表している。



ノコギリヒラタムシ



フタトゲホソヒラタム



カドコブホソヒラタム

1 位 / コクヌストモドキ

Tribolium castaneum

成虫体長

3.0～4.0mm

特徴・生態

触角は先端の3節が大きい。一見すると木材害虫の「ヒラタキクイムシ」に似ているため、よく間違われるが、木材を加害することはない。穀類の害虫で、完全な穀粒より、粉になったり、傷んだものを好んで食害する。成虫の寿命は長く、200日以上に及ぶ。乾燥には強いが、低温には弱い。

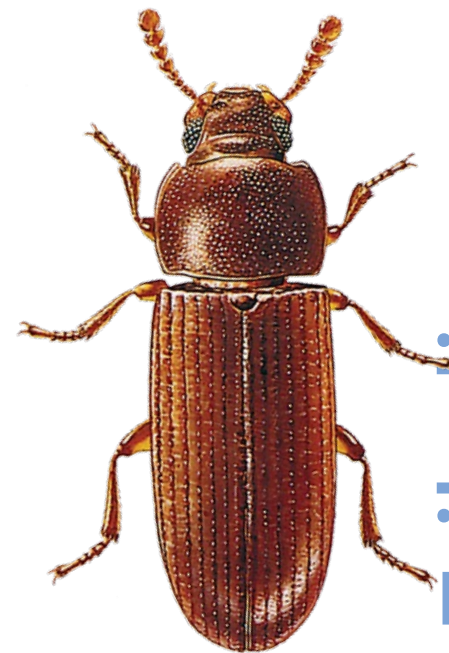
コクヌストモドキの防除方法

発生源（穀類、粉類など）を特定することが重要。

食品の場合は、薬剤処理はできないので、廃棄処分する。

部屋に散らばって潜んでいるものには、燻煙剤などを使用する。

本種は低温に弱いので、発生源となり得る食品はできるだけ冷蔵庫などで低温貯蔵するように心がけることも重要である。



Tribolium
castaneum

コクヌストモドキと ヒラタキクイムシの見分け方

体型

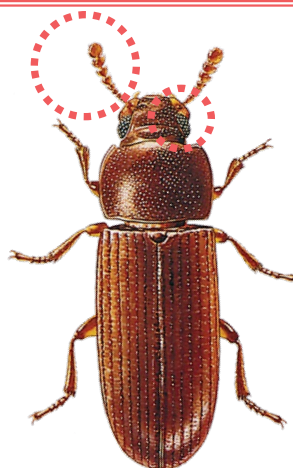
コクヌストモドキの方が扁平

触角

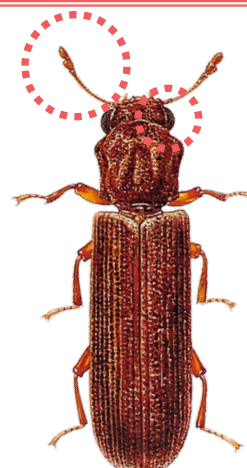
コクヌストモドキは先端の3節が大きい。
ヒラタキクイムシは先端の2節が大きい。

眼

ヒラタキクイムシの眼は半球状に飛び出しているように見える。
コクヌストモドキは、腹面側から見ると、楕円形の複眼がはっきりと見える。



コクヌストモドキ



ヒラタキクイムシ